

第3章 アンケート調査

調査の概要

(1) 調査の目的

次世代育成支援対策推進法（平成15年法律第120号）に基づく市町村行動計画の策定に必要な現状分析、アンケート調査、それに基づく目標事業量の設定のための基礎資料として分析し、計画策定のための基礎資料を得ることを目的としています。

(2) 調査対象・調査方法・回収結果等

本調査は、平成21年3月1日を基準日とし、住民基本台帳（平成21年2月13日現在）より、就学前児童（0～6歳）1,272人、小学生（1～6年生）1,321人の保護者全数2,593人を対象に実施しました。なお、調査対象となる子どもが2人以上いる場合は、複数の調査票に答えてもらっています。

表 アンケート調査の実施概要

| 種類 | 調査対象 (回答者) | 配布回収方法 | 配布数 | 有効 回収数 | 有効 回収率 |
|-------|---------------------|---|--------|-----------|-----------|
| 就学前児童 | 0～6歳の就学前児童の保護者 | ・幼稚園・保育園、幼稚園に通園している児童の保護者は、園を通じて配布・回収 ・幼稚園・保育園、幼稚園に通園していない児童の保護者は、郵送による配布・回収 | 1,272票 | 981票 | 77.1% |
| 小学生 | 小学校に通学している1～6年生の保護者 | ・町内の小学校に通学している児童の保護者は、小学校を通じて配布・回収 ・町外の小学校に通学している児童の保護者は、郵送による配布・回収 | 1,321票 | 1,272票 | 96.3% |
| 合計 | | | 2,593票 | 2,253票 | 86.9% |

(3) 集計分析にあたって

- ・グラフに表示されているN値は有効回答数です。
- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計がちょうど100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

調査結果の内容

平成21年3月に実施した「子育て支援に関するアンケート調査」（平成20年度調査）の結果から、主なものを取り上げています。また、町の現状を分析するために、前期計画策定時のアンケート調査「平成15年度調査」との比較を行っています。

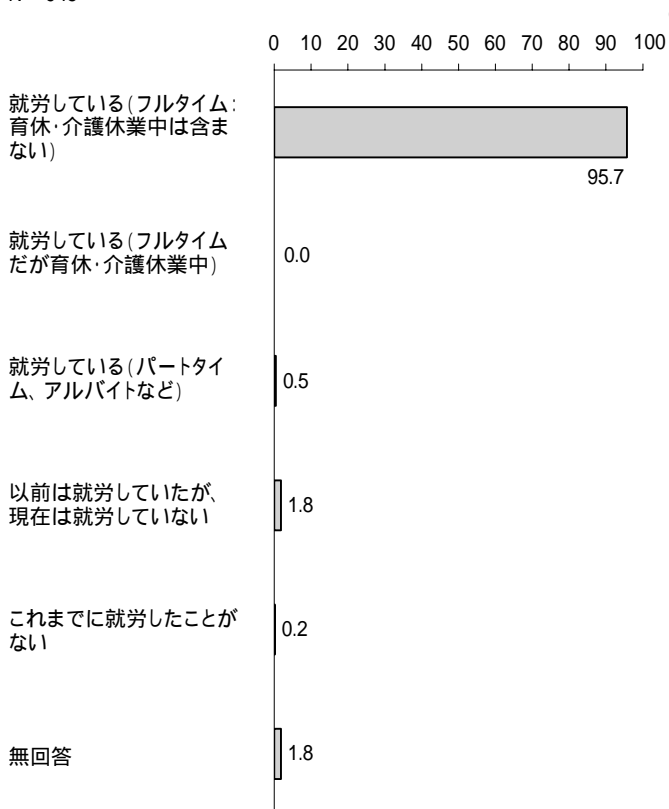
（1）両親の就労状況について

父親の就労状況

父親の就労状況については、就学前児童、小学生の保護者ともに、「就労している（フルタイム：育休・介護休業中は含まない）」が最も高く、9割以上を占めています。

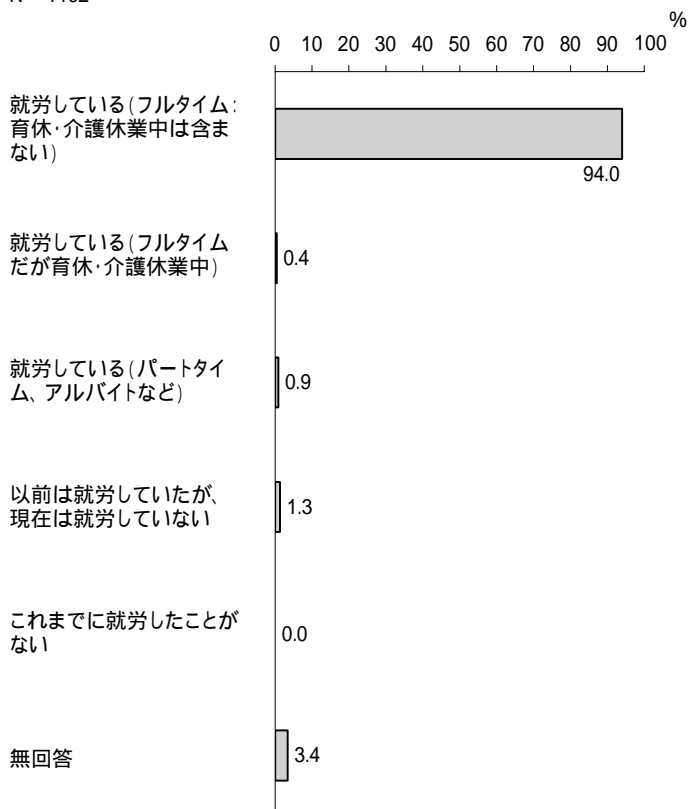
【就学前児童】

N = 945



【小学生】

N = 1192

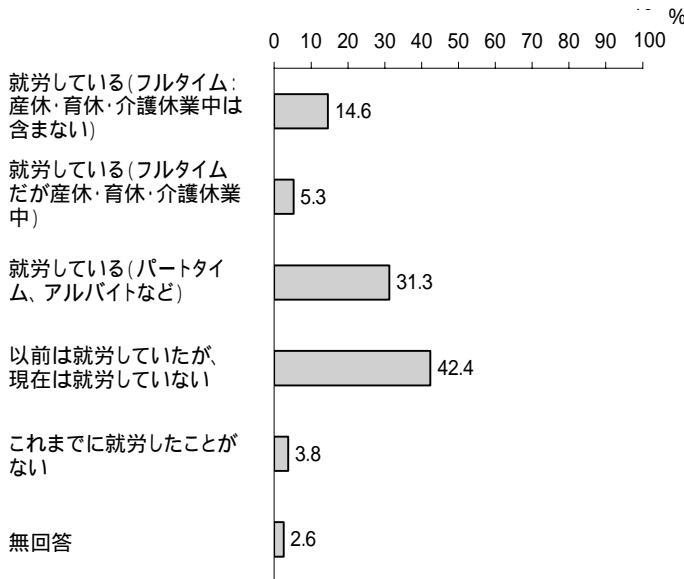


母親の就労状況

就学前児童の母親では「以前は就労していたが、現在は就労していない」、小学生の母親では「就労している（パートタイム、アルバイト等）」が約半数を占めています。

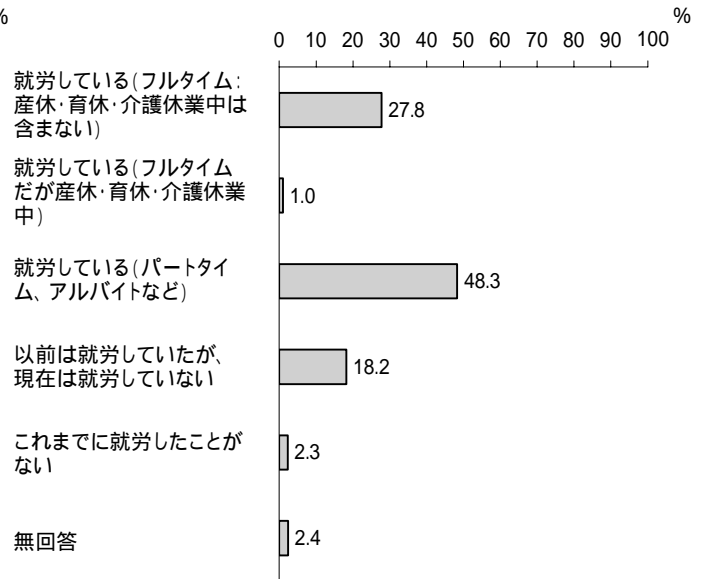
【就学前児童】

N = 978



【小学生】

N = 1242

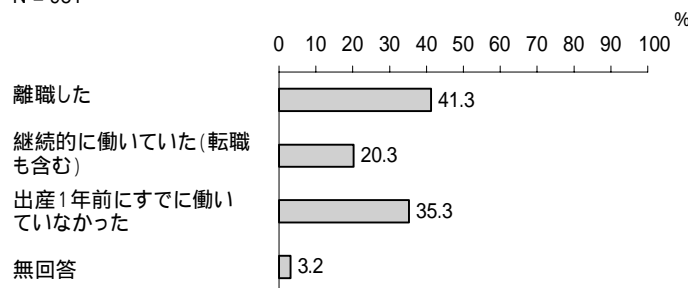


母親の出産前後の就労状況

就学前児童では、「離職した」が41.3%と最も高く、次いで「出産1年前にすでに働いていなかった」が35.3%となっており、出産前後に就労していない割合が約8割となっています。

【就学前児童】

N = 981



(今後の就労意向のある)母親が就労を希望する時の子どもの年齢

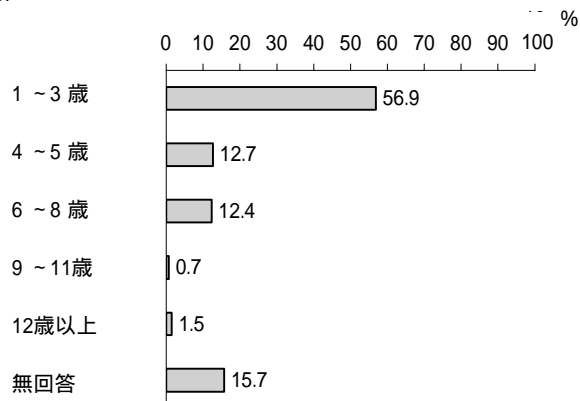
就学前児童では、「1～3歳」が56.9%と最も高くなっています。

小学生では、「1～3歳」、「6～8歳」がともに23.2%と最も高く、次いで「12歳以上」が15.9%となっています。

就学前児童は、子どもが「1～3歳」の時期から就労を希望しているが、小学生では、年齢によって、ばらつきがみられます。

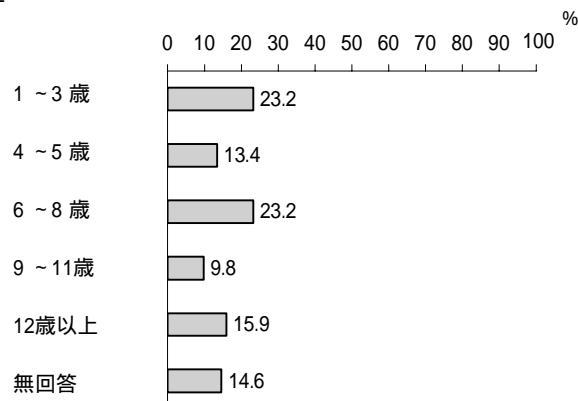
【就学前児童】

N = 267



【小学生】

N = 82



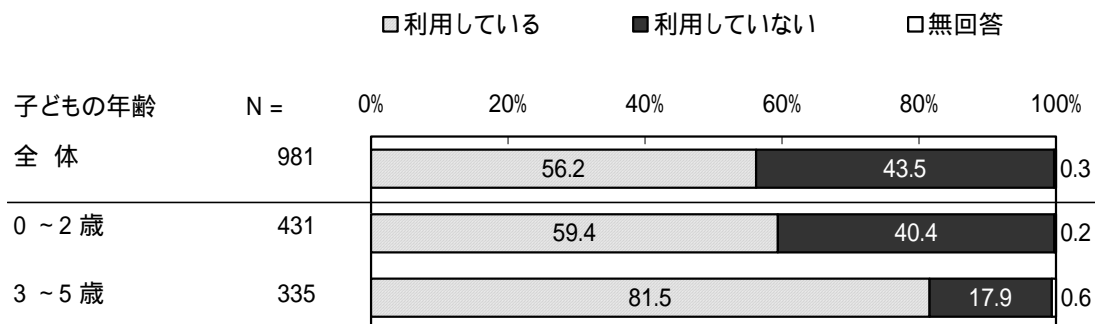
(2) 保育サービスの利用について

保育サービスの利用状況

就学前児童では、「利用している」が56.2%、「利用していない」が43.5%となっています。

子どもの年齢別でみると、「利用している」が、0～2歳では59.4%であるのに対して、3～5歳では81.5%となっています。子どもの年齢が低い時期は、保護者が保育する傾向がみられます。

【就学前児童】

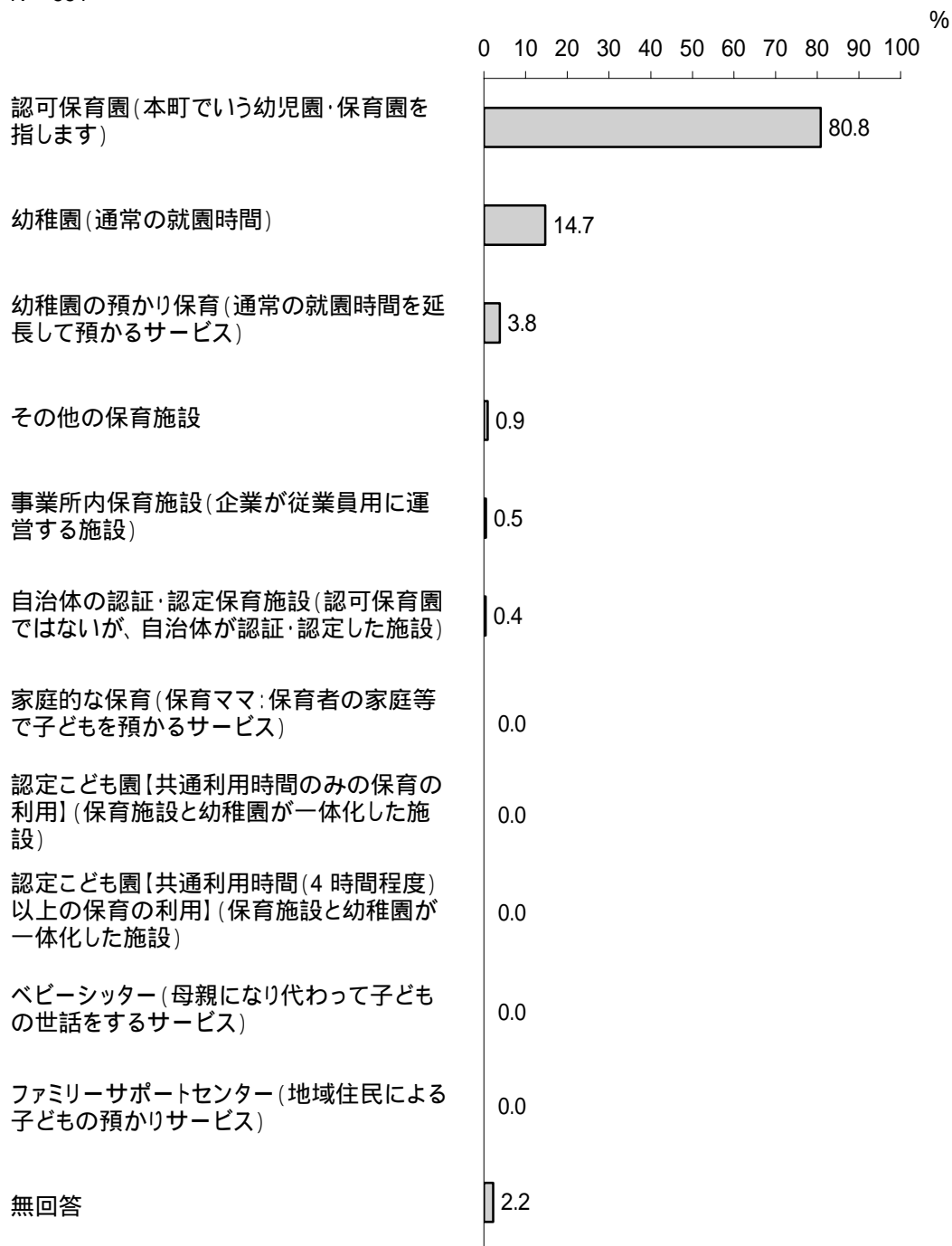


利用している保育サービスの種類

保育サービスを利用している就学前児童では、「認可保育園（本町でいう幼児園・保育園を指します）」が80.8%と最も高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間）」が14.7%となっています。

【就学前児童】

N = 551



(3) 留守家庭児童教室について

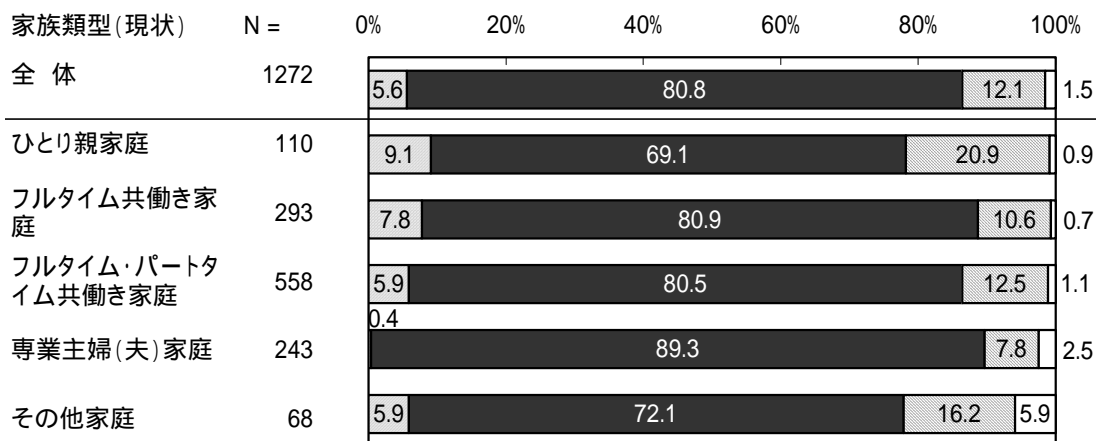
留守家庭児童教室の利用状況

小学生では、「利用している」が5.6%、「利用していない」が80.8%、「利用できない(小学5～6年生のため)」が12.1%となっています。

家族類型別には、ひとり親家庭が9.1%となっています。

【小学生】

- 利用している
- 利用していない
- ▨利用できない(小学5～6年生のため)
- 無回答

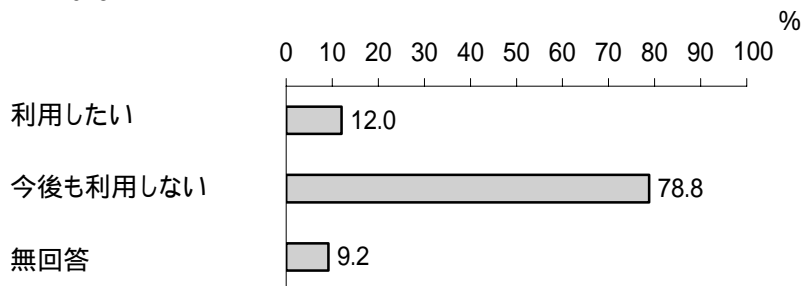


留守家庭児童教室の利用意向

小学生では、「利用したい」が12.0%、「今後も利用しない」が78.8%となっています。

【小学生】

N = 1028

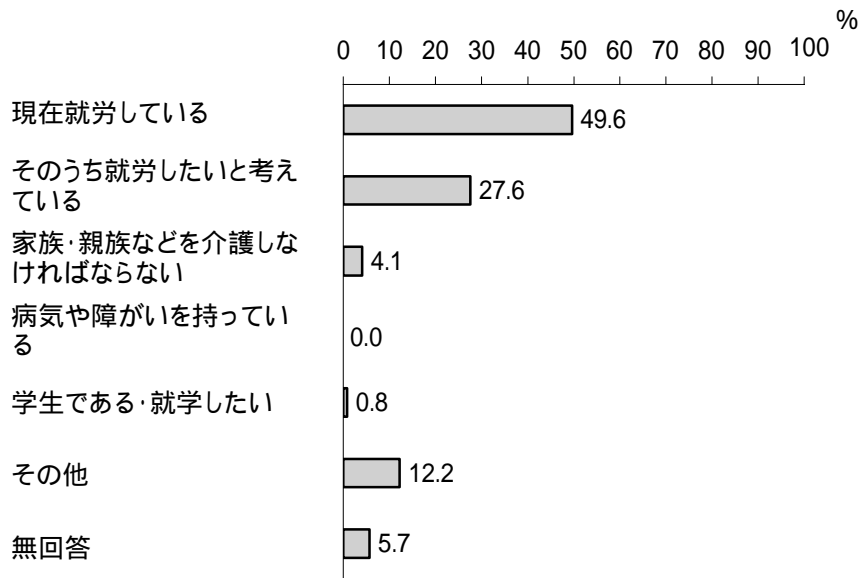


留守家庭児童教室の今後の利用希望理由

利用希望のある小学生では、その理由として「現在就労している」が49.6%と最も高く、次いで「そのうち就労したいと考えている」が27.6%となっています。

【小学生】

N = 123



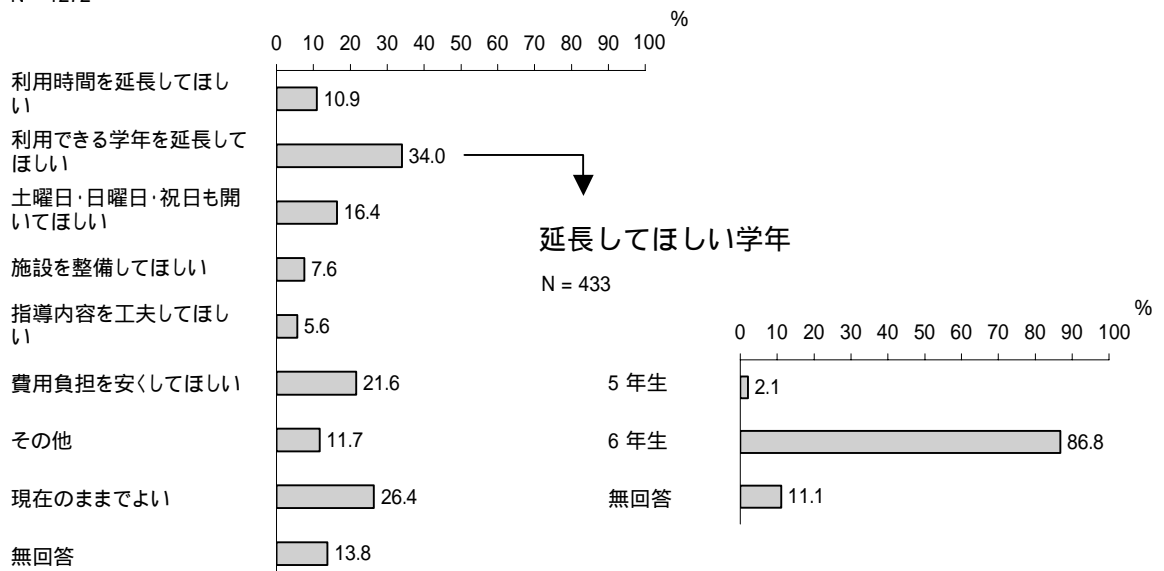
留守家庭児童教室に希望すること（複数回答）

小学生では、「利用できる学年を延長してほしい」が34.0%と最も高く、そのうち、延長してほしい学年は、「6年生」が8割以上と高くなっています。

次いで「現在のままでよい」が26.4%、「費用負担を安くしてほしい」が21.6%となっています。

【小学生】

N = 1272



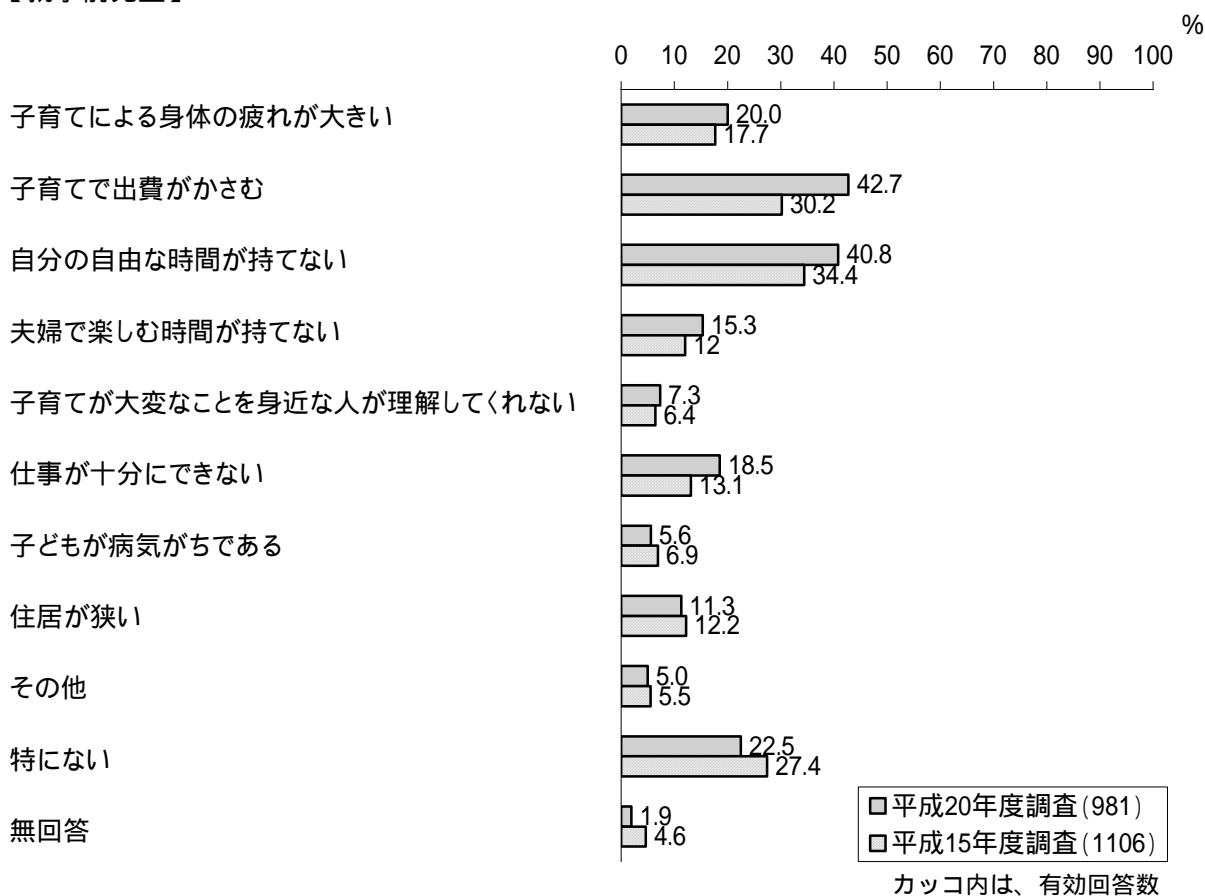
(4) 子育てに関する悩みや不安について

子育てをする上で、特に不安に思っていることや悩んでいること(複数回答)

就学前児童では、「子育てで出費がかさむ」が42.7%と最も高く、次いで「自分の自由な時間が持てない」が40.8%、「特にない」が22.5%となっています。

平成15年度調査と比べると、「子育てで出費がかさむ」が高くなっています。

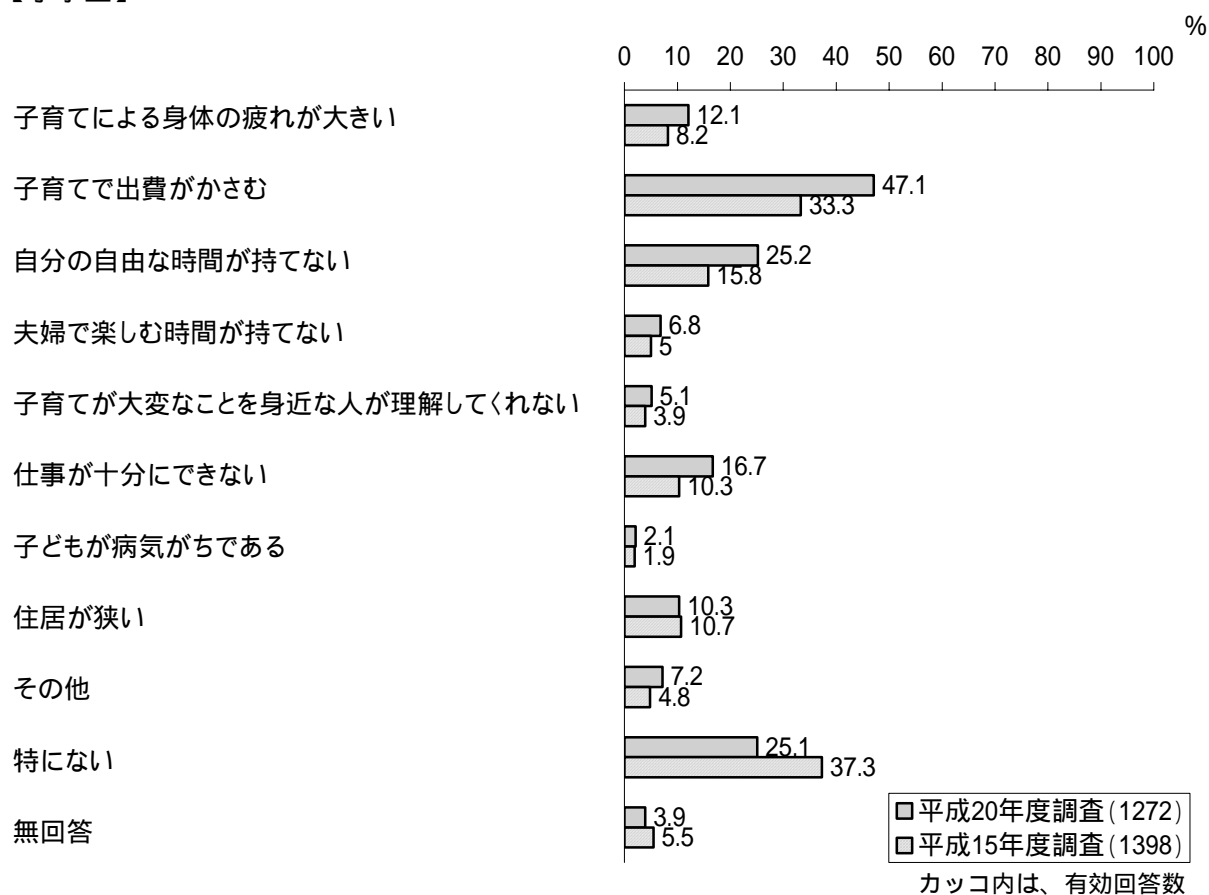
【就学前児童】



小学生では、「子育てで出費がかさむ」が47.1%と最も高く、次いで「自分の自由な時間が持てない」が25.2%、「特にない」が25.1%となっています。

平成15年度調査と比べると、「子育てで出費がかさむ」が上がり、「特にない」が下がっています。

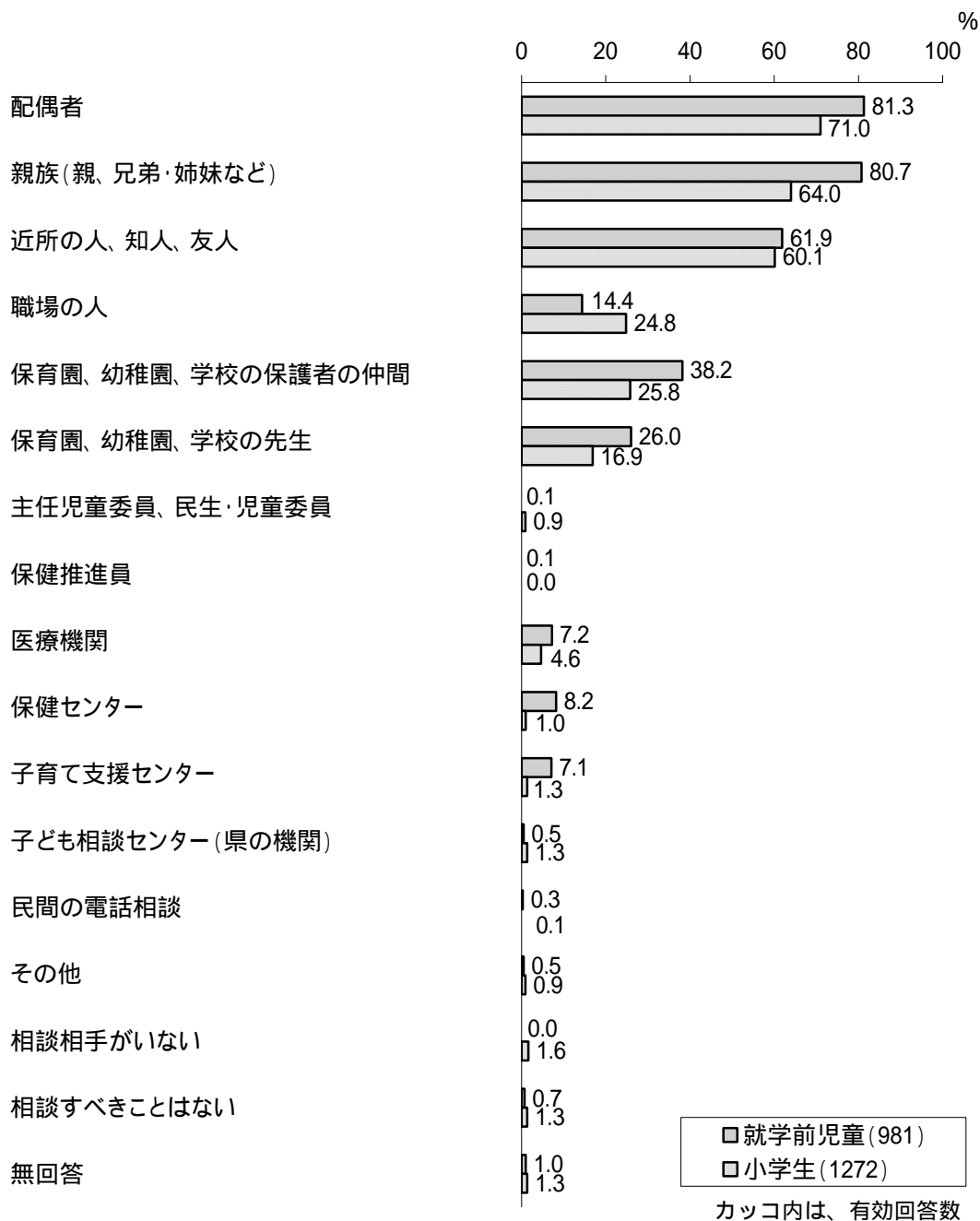
【小学生】



子育てに関する悩みや不安の相談相手（複数回答）

就学前児童では、「配偶者」が81.3%、「親族（親、兄弟・姉妹など）」が80.7%と高く、「近所の人、知人、友人」が61.9%とつづいています。

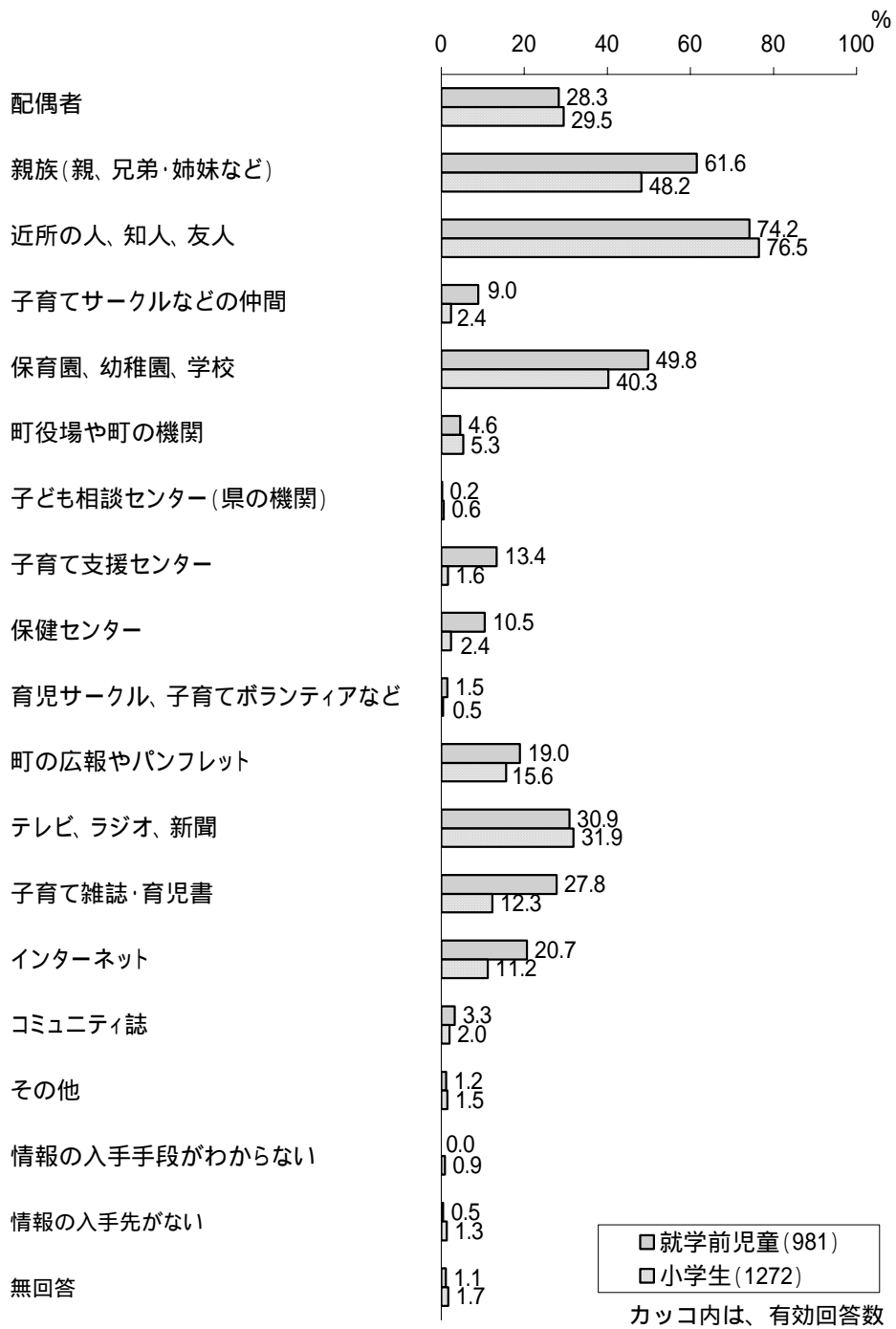
小学生では、「配偶者」が71.0%と最も高く、次いで「親族（親、兄弟・姉妹など）」が64.0%、「近所の人、知人、友人」が60.1%となっています。



子育てに関する情報の入手方法（複数回答）

就学前児童、小学生ともに、「近所の人、知人、友人」が約7割と最も高く、次いで「親族（親、兄弟・姉妹など）」、「保育園、幼稚園、学校」とつづいています。

就学前児童と小学生を比べると、就学前児童で「子育て支援センター」、「保健センター」が高くなっています。



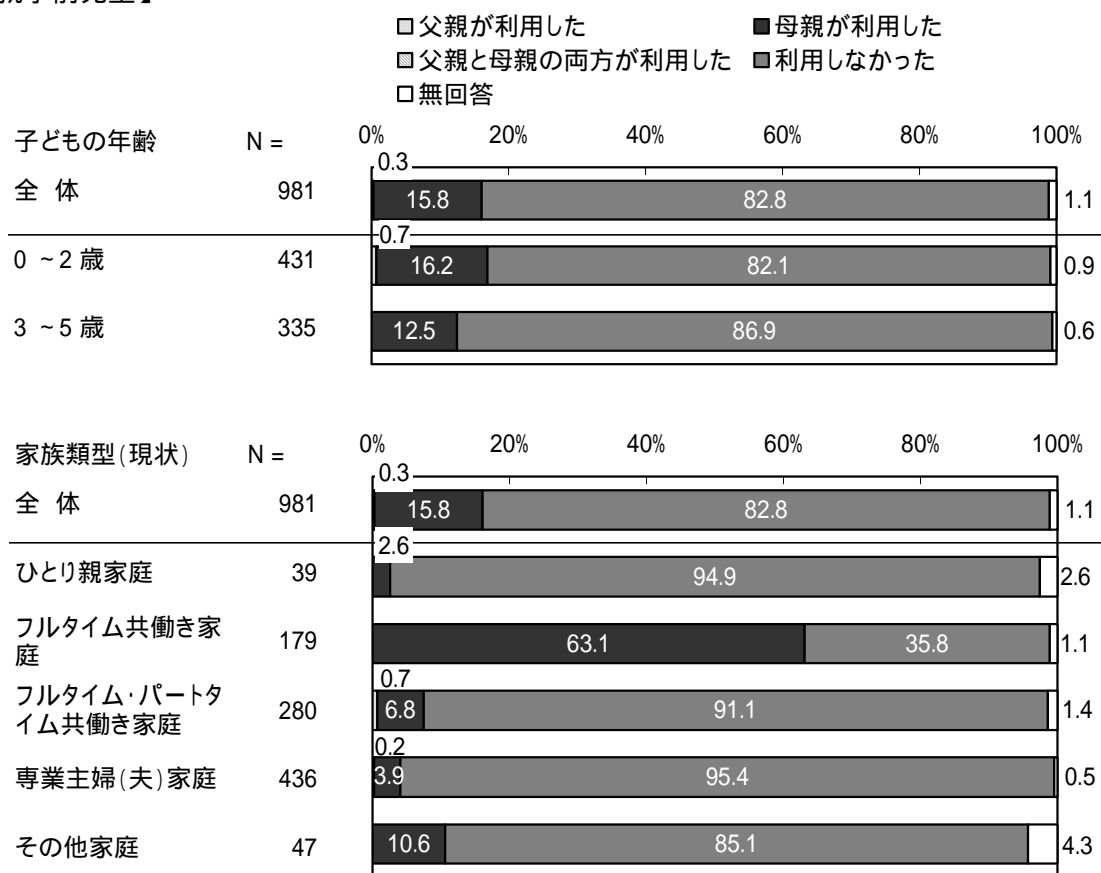
(5) 保護者の育児休業制度の利用について

保護者の育児休業制度の利用状況

就学前児童では、「利用しなかった」が82.8%と最も高く、次いで「母親が利用した」が15.8%となっています。

家族類型(現状)別でみると、フルタイム共働き家庭では「母親が利用した」が、他に比べて高くなっています。

【就学前児童】

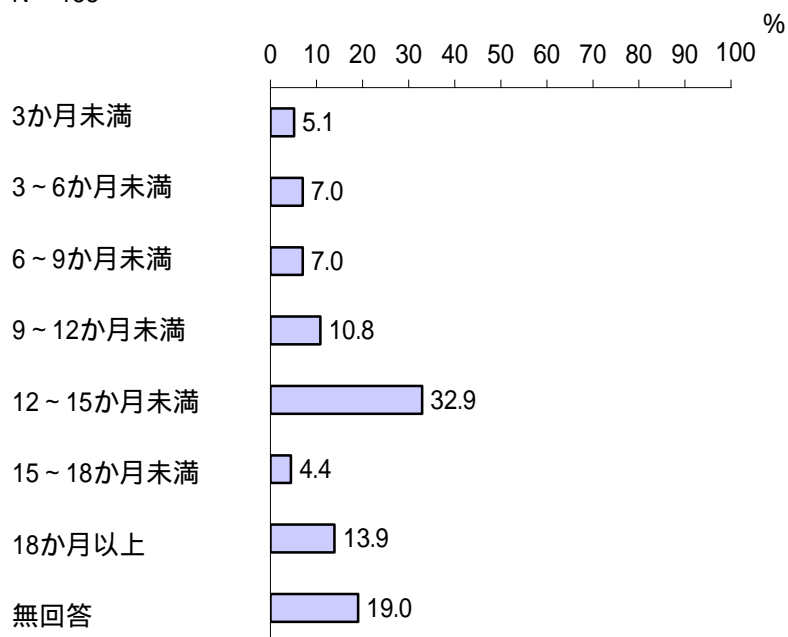


育児休業から復帰したときの子どもの月齢

育児休業を利用した就学前児童では、「12～15か月未満」が32.9%と最も高く、次いで「18か月以上」が13.9%、「9～12か月未満」が10.8%となっています。

【就学前児童】

N = 158



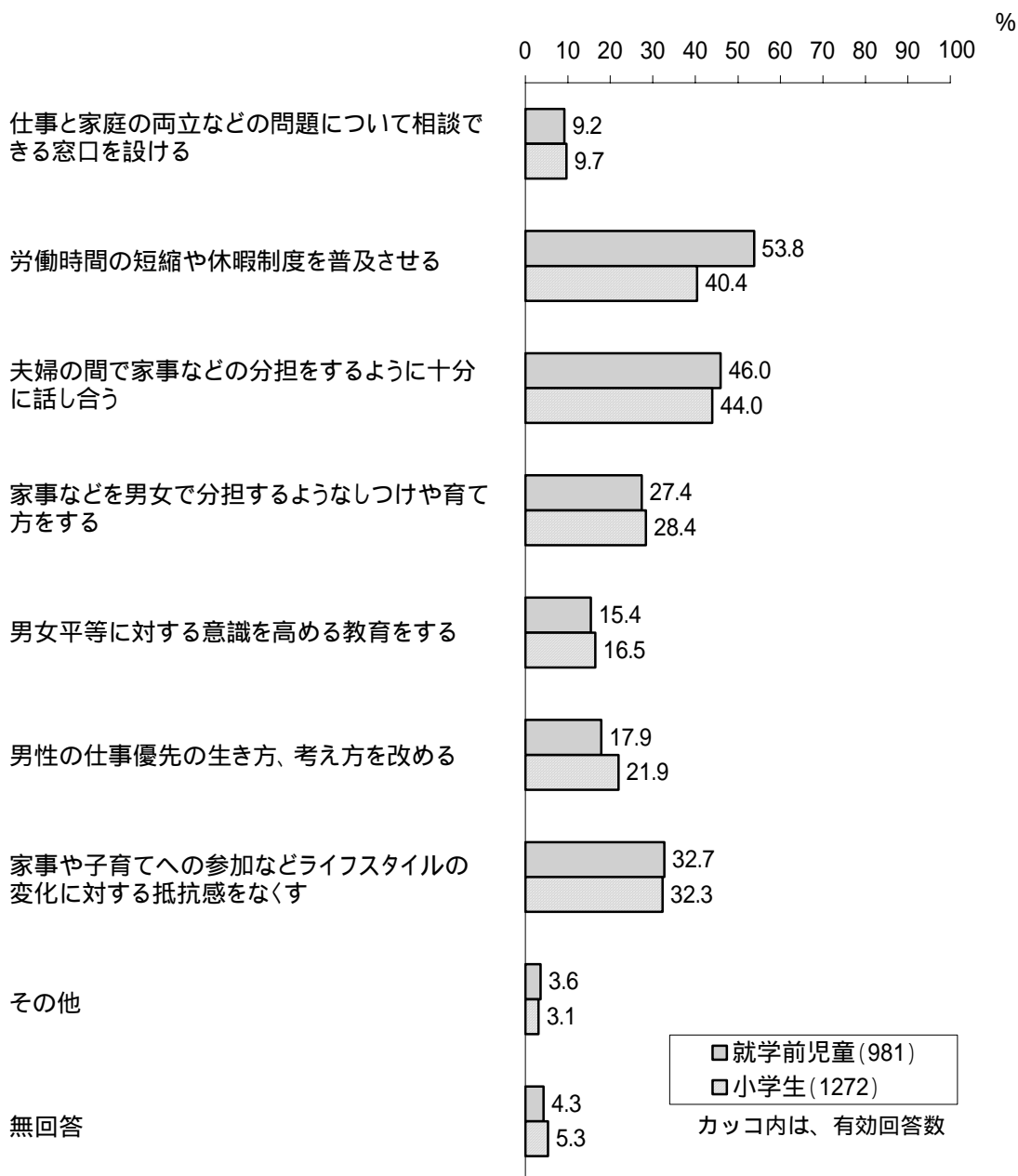
(6) 子育てについて

男性が女性とともに家事や子育て、教育に積極的に参加するために必要なこと
(複数回答)

就学前児童では、「労働時間の短縮や休暇制度を普及させる」が53.8%と最も高く、次いで「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」が46.0%、「家事や子育てへの参加などライフスタイルの変化に対する抵抗感をなくす」が32.7%となっています。

小学生では、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」が44.0%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や休暇制度を普及させる」が40.4%、「家事や子育てへの参加などライフスタイルの変化に対する抵抗感をなくす」が32.3%となっています。

就学前児童と小学生を比べると、就学前児童で「労働時間の短縮や休暇制度を普及させる」が高くなっています。

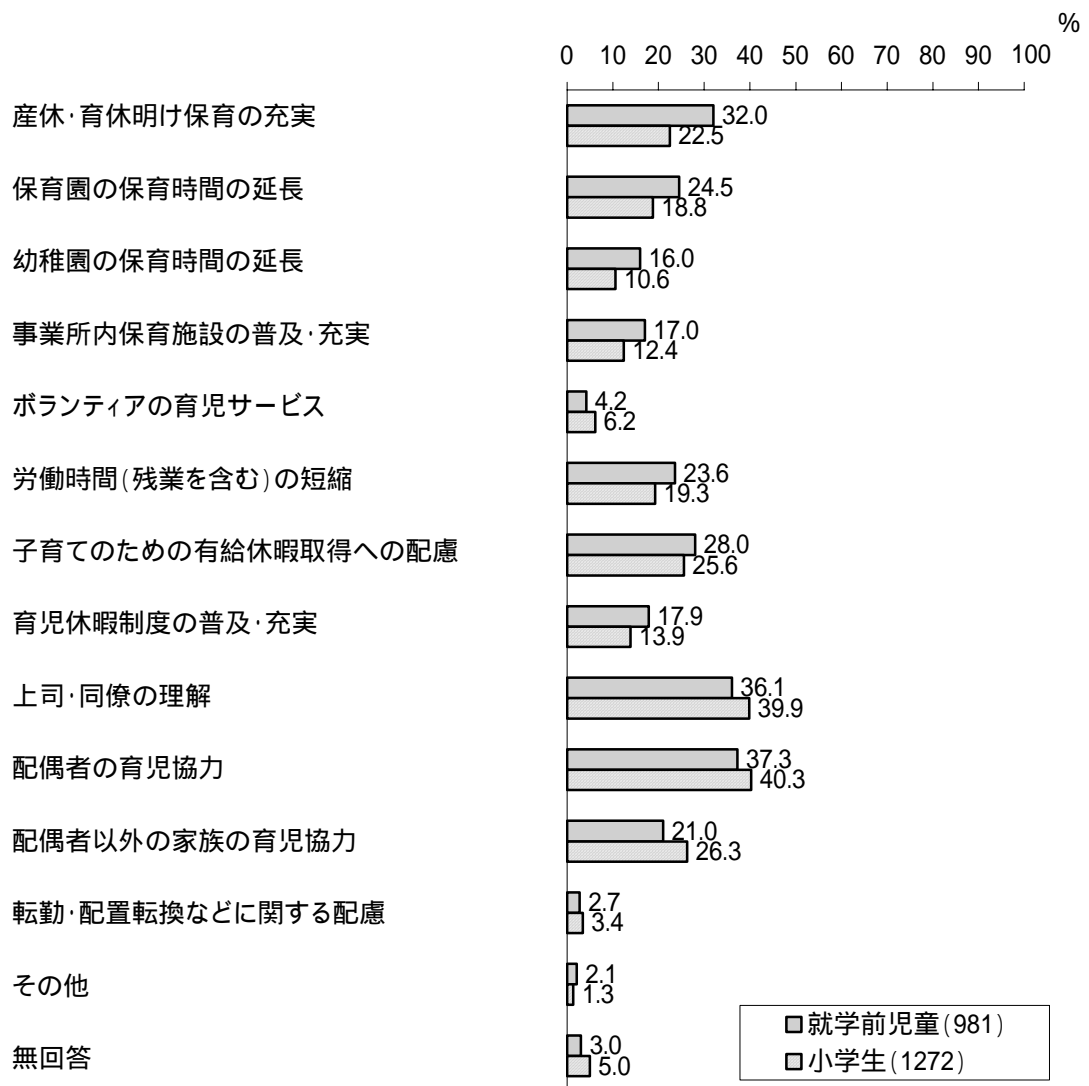


女性が、子育てをしながら働き続けるために必要なこと（複数回答）

就学前児童では、「配偶者の育児協力」が37.3%と最も高く、次いで「上司・同僚の理解」が36.1%、「産休・育休明け保育の充実」が32.0%となっています。

小学生では、「配偶者の育児協力」が40.3%と最も高く、次いで「上司・同僚の理解」が39.9%、「配偶者以外の家族の育児協力」が26.3%となっています。

就学前児童と小学生を比べると、就学前児童で「産休・育休明け保育の充実」、小学生で「配偶者の育児協力」、「上司・同僚の理解」が高くなっています。



カッコ内は、有効回答数

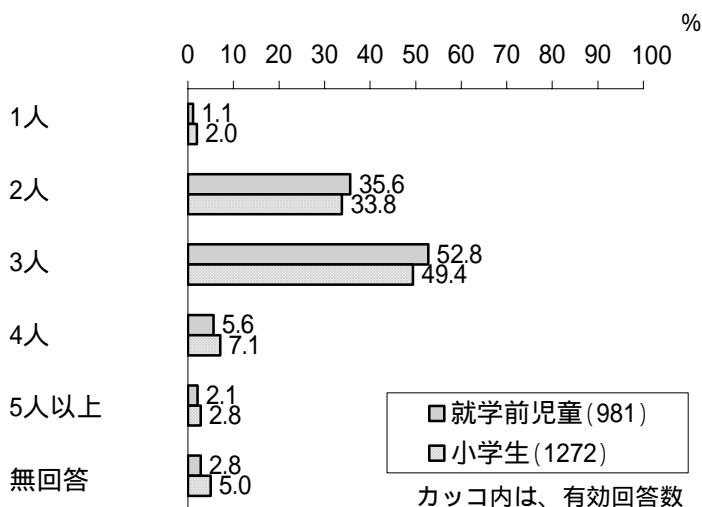
理想の子どもの数、実際にいる子どもの数

理想の子どもの数について、就学前児童、小学生ともに、「3人」が最も高く、次いで「2人」となっています。

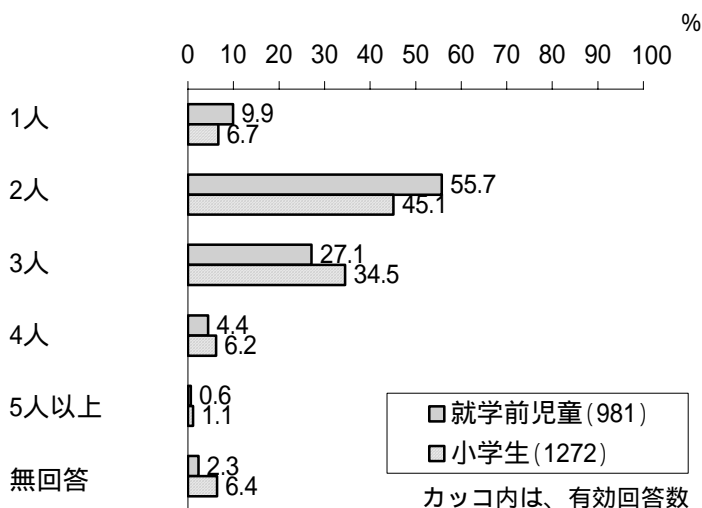
実際にいる子どもの数についても同様に、就学前児童、小学生ともに、「2人」が最も高く、次いで「3人」となっています。

理想の子どもの数よりも、実際にいる子どもの数が少なくなる傾向がみられます。

理想とする子どもの数

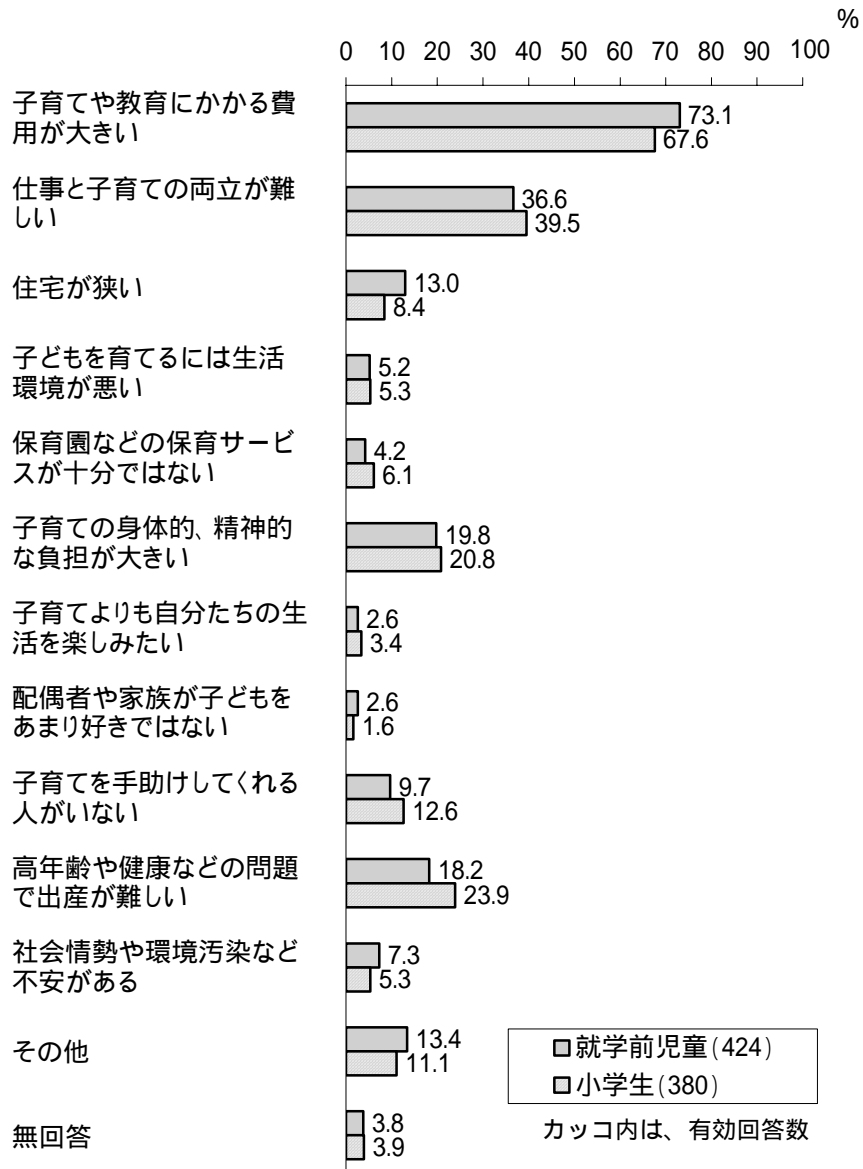


実際にいる子どもの数



理想の子どもの数より実際にいる数が少ない理由（複数回答）

就学前児童、小学生ともに、「子育てや教育にかかる費用が大きい」が最も高く、次いで「仕事と子育ての両立が難しい」となっています。さらに、就学前児童で、「子育ての身体的、精神的な負担が大きい」が19.8%、小学生で「高年齢や健康などの問題で出産が難しい」が23.9%となっています。



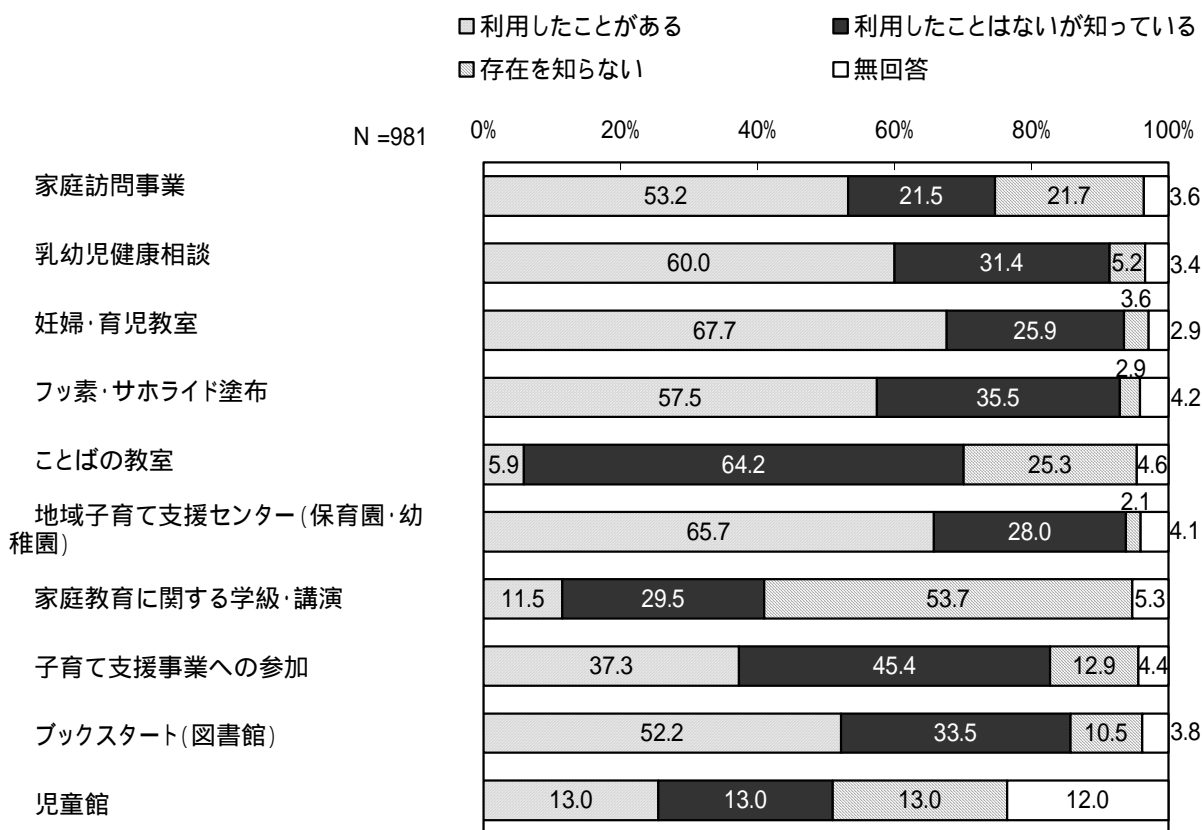
事業の認知度・利用状況

就学前児童では、「利用したことがある」は、『妊婦・育児教室』が67.7%と最も高く、次いで『地域子育て支援センター（保育園・幼稚園）』が65.7%、『乳幼児健康相談』が60.0%となっています。

「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」をあわせた“知っている”人は、『乳幼児健康相談』、『妊婦・育児教室』、『フッ素・サホライド塗布』、『地域子育て支援センター（保育園・幼稚園）』で9割以上となっています。

「存在を知らない」と答えた人は、『家庭教育に関する学級・講演』で53.7%となっています。

【就学前児童】

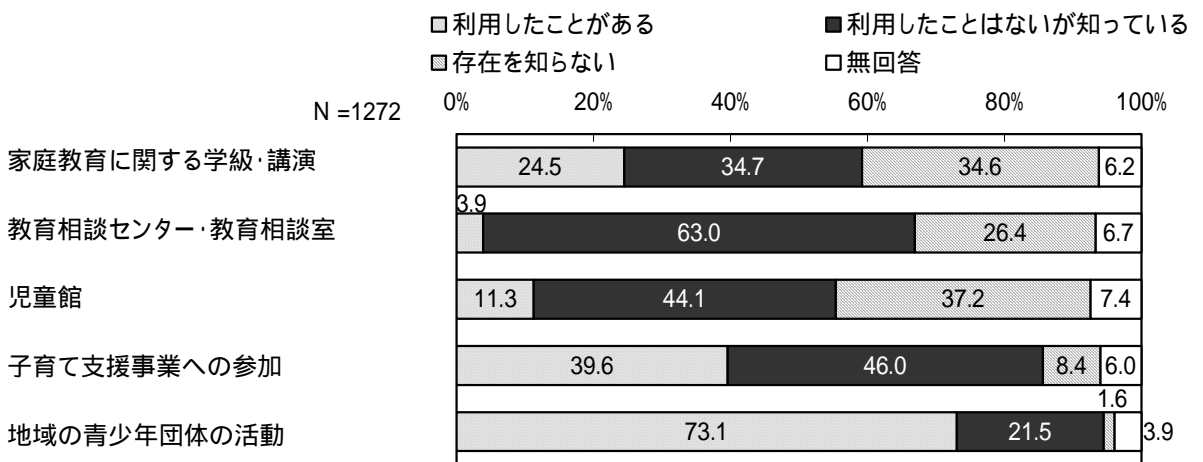


小学生では、「利用したことがある」は、『地域の青少年団体の活動』が73.1%と最も高くなっています。

「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」をあわせた“知っている”人は、『子育て支援事業への参加』、『地域の青少年団体の活動』で8割以上となっています。

「存在を知らない」と答えた人は、『家庭教育に関する学級・講演』、『児童館』で3割以上となっています。

【小学生】

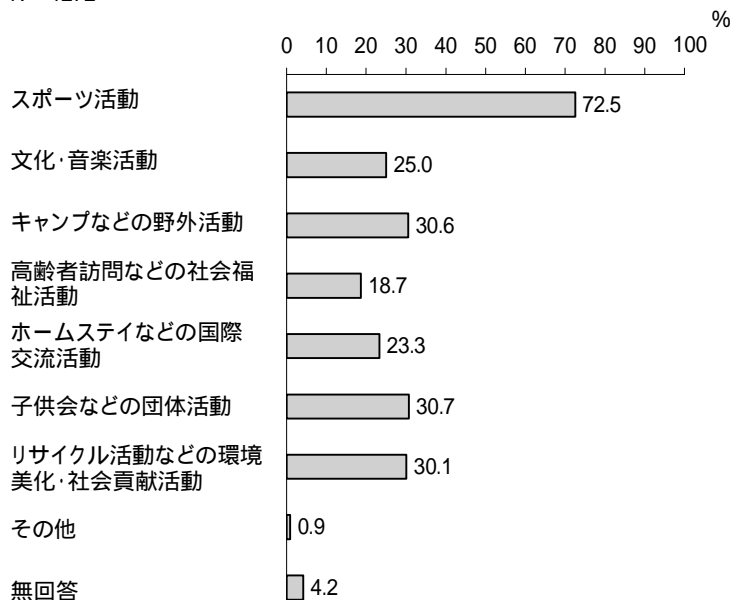


地域活動やグループ活動への参加状況（複数回答）

小学生では、「スポーツ活動」が72.5%と最も高く、次いで「子供会などの団体活動」、『キャンプなどの野外活動』、『リサイクル活動などの環境美化・社会貢献活動』が約3割となっています。

【小学生】

N = 1272



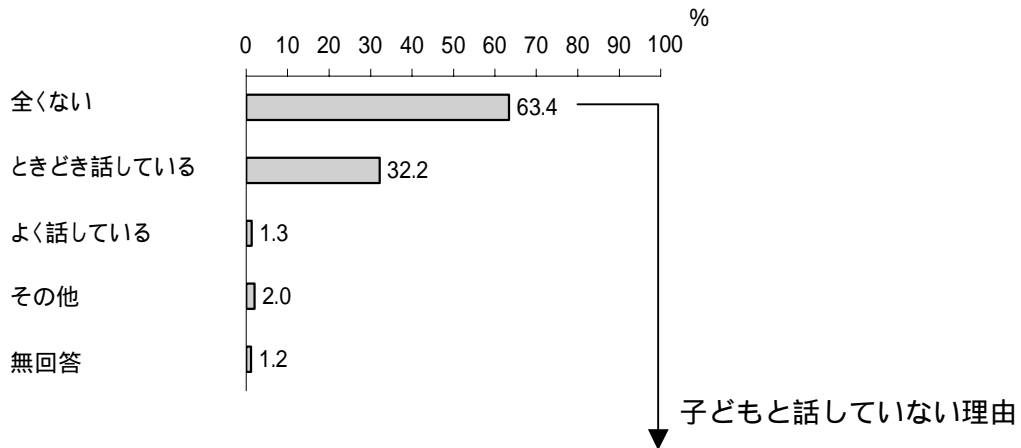
性教育について親子で話し合うこと

小学生では、「全くない」が63.4%と最も高くなっています。

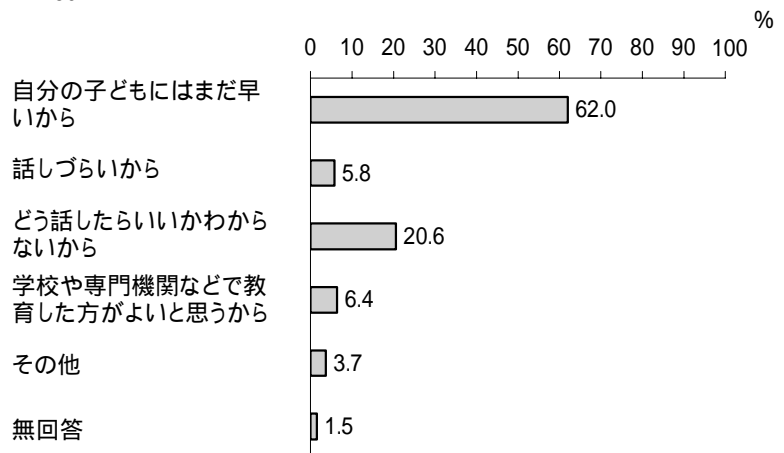
子どもと話していない理由は、「自分の子どもにはまだ早いから」が62.0%と最も高く、次いで「どう話したらいいかわからないから」が20.6%となっています。

【小学生】

N = 1272



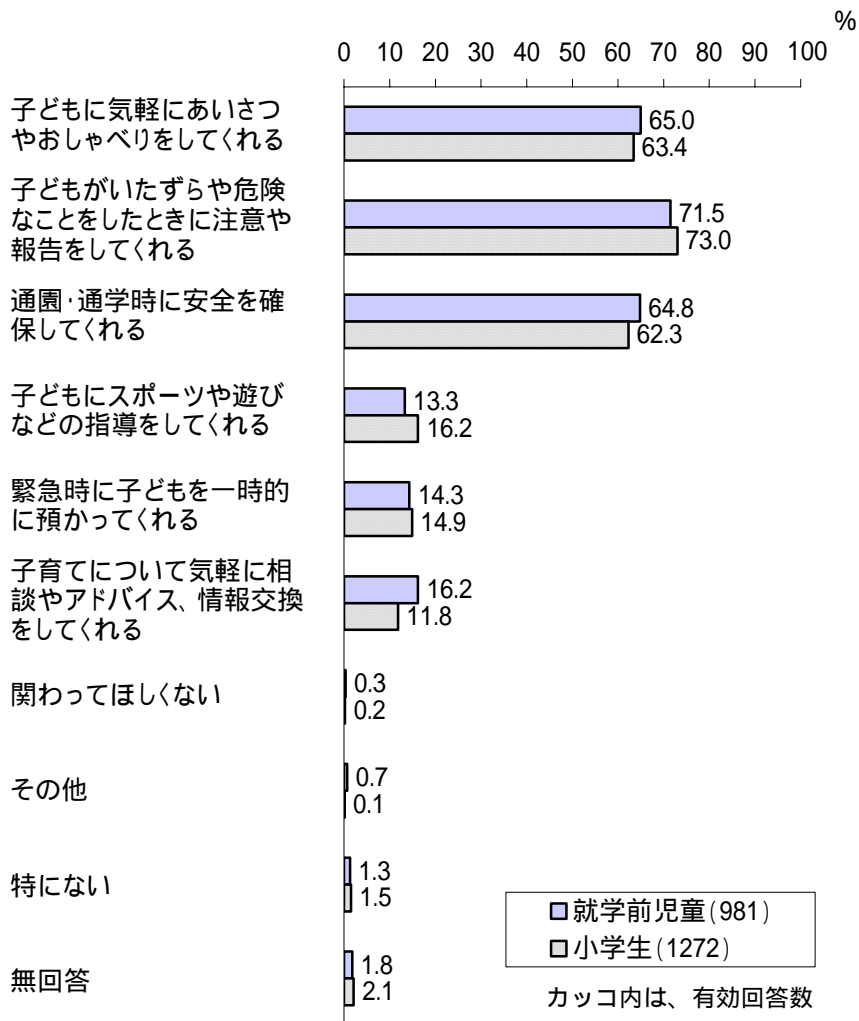
N = 807



子どもに対して地域に望むこと（複数回答）

就学前児童では、「子どもがいたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる」が71.5%と最も高く、次いで「子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる」が65.0%、「通園・通学時に安全を確保してくれる」が64.8%となっています。

小学生では、「子どもがいたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる」が73.0%と最も高く、次いで「子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる」が63.4%、「通園・通学時に安全を確保してくれる」が62.3%となっています。

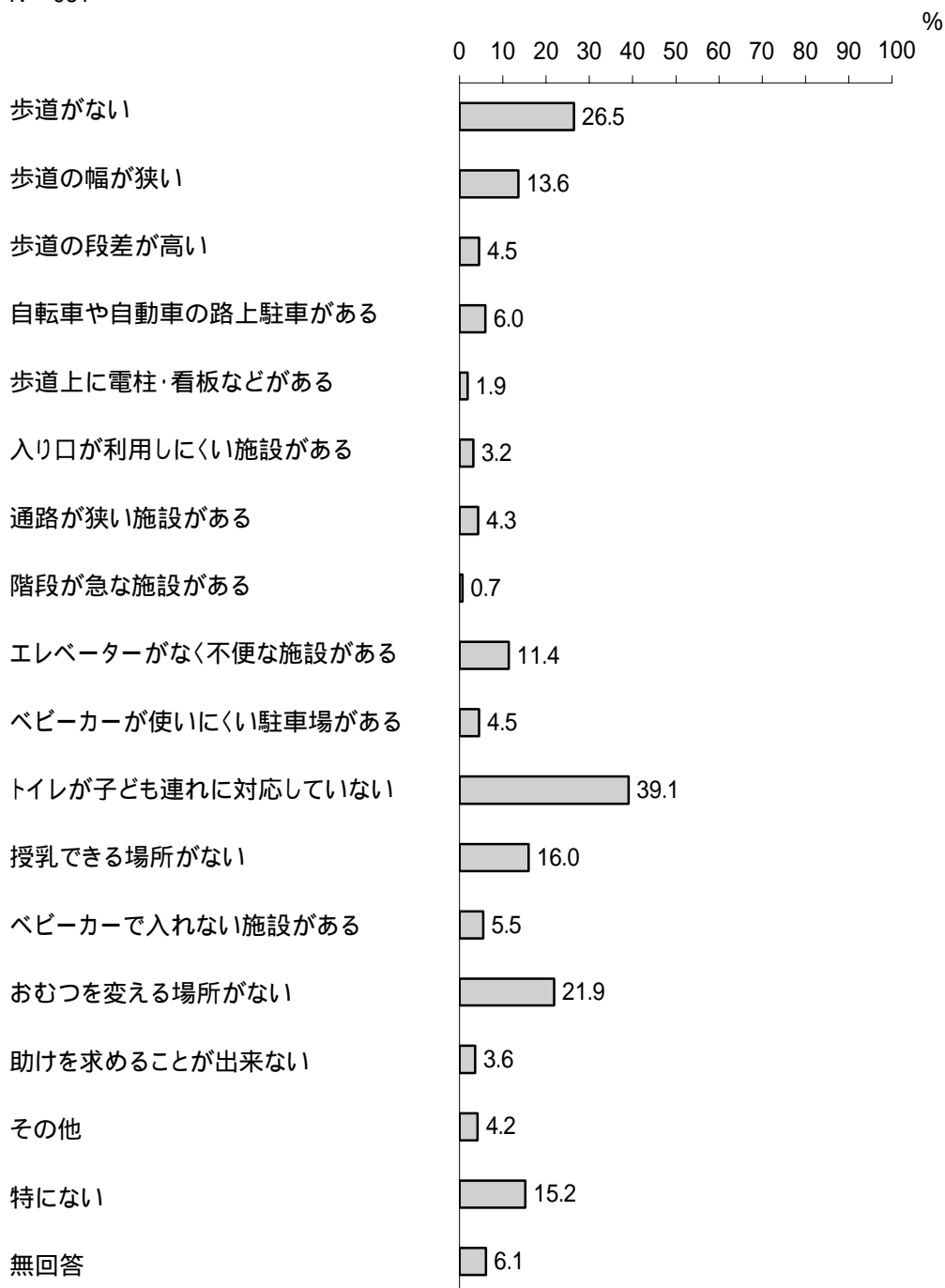


子どもとの外出の際に、困ること・困ったこと（複数回答）

就学前児童では、「トイレが子ども連れに対応していない」が39.1%と最も高く、次いで「歩道がない」が26.5%、「おむつを変える場所がない」が21.9%となっています。

【就学前児童】

N = 981

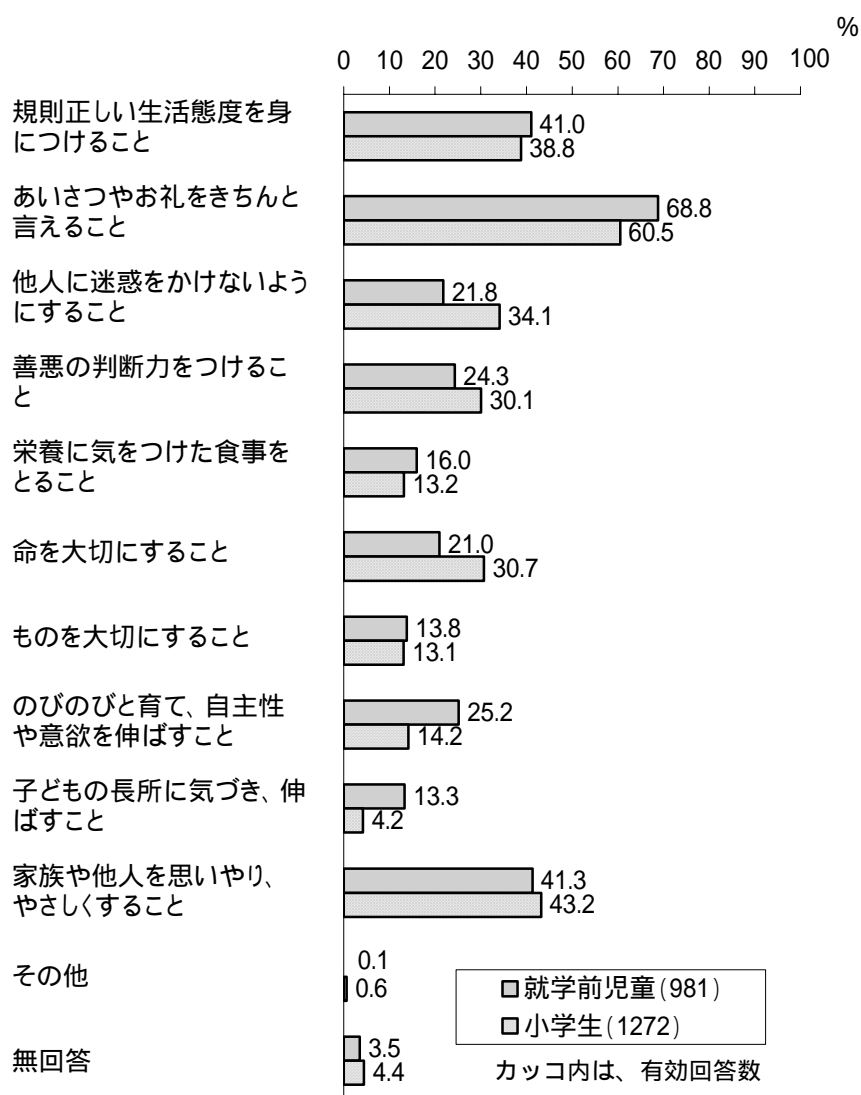


(7) 子育てにおいて、家庭で大切にしていること、幼稚園・保育園・幼稚園
・学校で大切にしてほしいこと

家庭で大切にしていること(複数回答)

家庭で大切にしていることについて、就学前児童、小学生ともに、「あいさつやお礼をきちんとと言えること」が最も高く、次いで「家族や他人を思いやり、やさしくすること」、「規則正しい生活態度を身につけること」となっています。

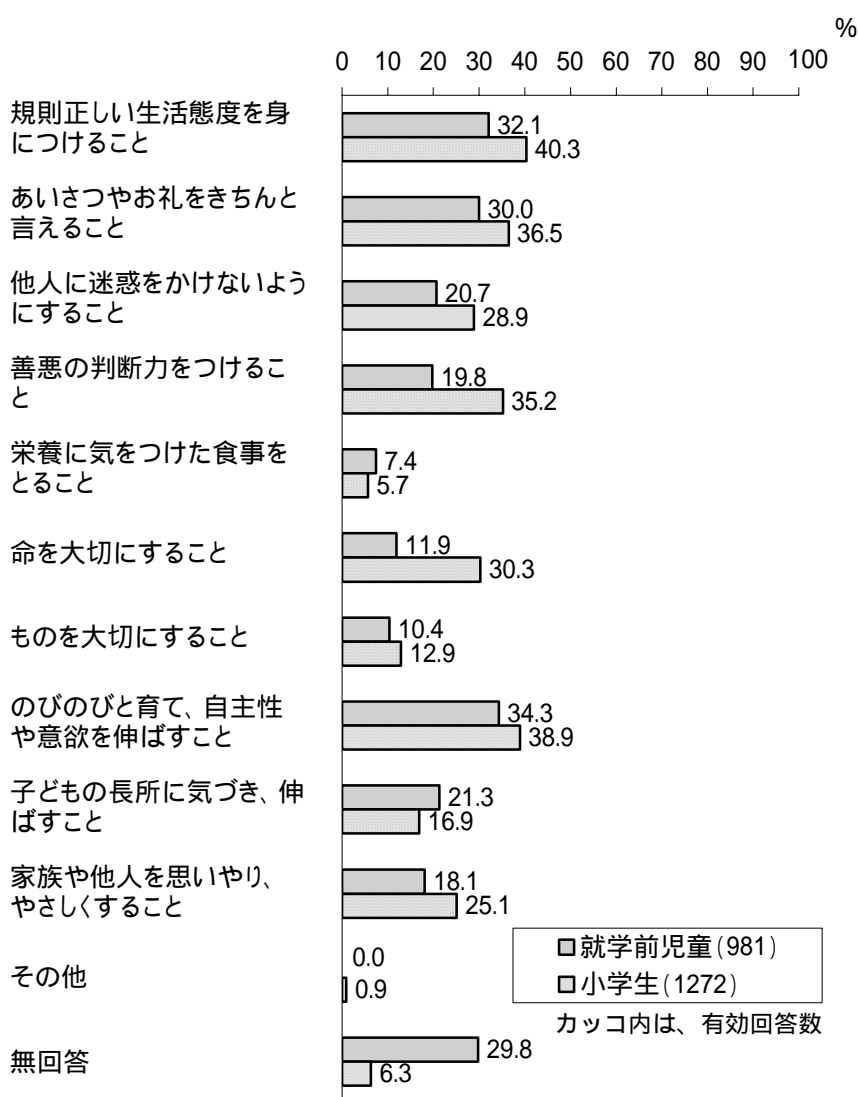
就学前児童と小学生を比べると、小学生で、「他人に迷惑をかけないようにすること」、「命を大切にすること」が高くなっています。



幼稚園・保育園・幼稚園・学校で大切にしてほしいこと（複数回答）

幼稚園・保育園・幼稚園・学校で大切にしてほしいことについて、就学前児童では、「のびのびと育て、自主性や意欲を伸ばすこと」が34.3%と最も高く、次いで「規則正しい生活態度を身につけること」が32.1%、「あいさつやお礼をきちんとと言えること」が30.0%となっています。

小学生では、「規則正しい生活態度を身につけること」が40.3%と最も高く、次いで「のびのびと育て、自主性や意欲を伸ばすこと」が38.9%、「あいさつやお礼をきちんとと言えること」が36.5%となっています。



(8) 本町に対して、子育て支援の充実を図ってほしいこと（複数回答）

就学前児童では、「子連れでも楽しめる場の整備」が67.8%と最も高く、次いで「保育費用の軽減」が56.9%、「医療体制の整備」が33.0%となっています。平成15年度調査と比べると「児童館など（つどいの場、イベント）の充実」が低くなっています。

小学生では、「子連れでも楽しめる場の整備」が56.6%と最も高く、次いで「児童館など（つどいの場、イベント）の充実」が41.0%、「医療体制の整備」が33.1%となっています。

